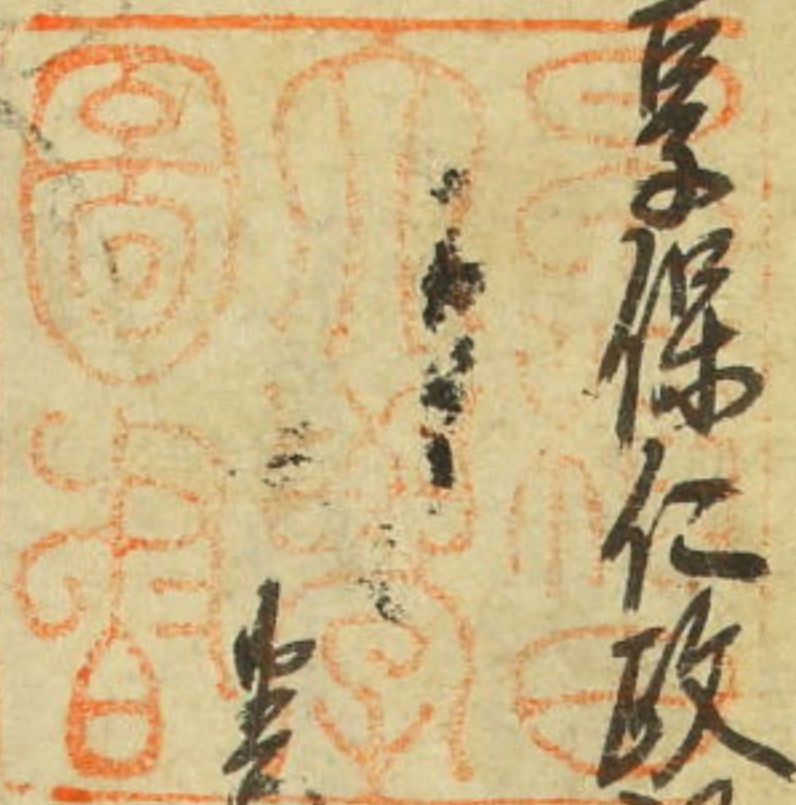






享保仁政録



巻之三十一

浪人相田惣右衛門夫婦病死の事

并於花之右邊の方と書らるる事

大方保業之節於花之右邊の事

并於川上五人全之節が事

奪ひとり事

此の事



天保十八年九月
本大學出版部

門へ13
號 3364
1

巻之三

一 南出首入金之持守の事

并出守後南守の事

一 陸川保十部あきめ金を授けり

并あきめ保治原保之持守

御物と程も事

巻之三

一 陸川保十部あきめ金を授けり

并陸川保十部あきめ金を授けり

一 陸川保十部あきめ金を授けり

并陸川保十部あきめ金を授けり

御物

巻之七

一 家之主たるは其情事所 薪屋在

江戸市一丁目合町御事

并 勝久保町一丁目御事

巻之八

一 勝久保南河原町御事

并 第之所 御事 大久保之御事

一の巨保の御事

一 御事 日暮町之進 巨保の御事

并 御事 進 御事 御事

御事

巻之六

一 江戸市御事 御事

巻之七

一 お花が母を於川を敷す事

巻之八

一 白雲氏の御あはれの馬場
お花を敷す事

巻之九

一 久保家一同の御あはれの事
并 御所様之御揚屋へ入る

巻之拾

一 於川橋下所家の主を相
取大長巻を敷す事

糸巻たぬ 権八 返り書
よる事

糸巻たぬ

一 糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ
糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ
糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ

糸巻たぬ

一 糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ
糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ
糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ

糸巻たぬ

一 糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ
糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ
糸巻たぬ 糸巻たぬ 糸巻たぬ

巻之三拾九

一 勝丸博女うらめたむし行をりなま事まじたるあひ所あのお大名

どののく出陣候ひきだす事

并 氏女うぢめ所しよ博はく女にや白しろ状じやうの事

巻之三拾八

一 鈴川すずがわ博はく中ちゆう席せき實じつ入いり深ふか尾お遠とほ馬ま事

博はく吟ぎん傳でん子こ依よ博はく中ちゆう席せき八はち目め候けの

事

并 務む之の由よし仕し立た事こと

以上

惣目録



京保仁政録

目録

一浪人^{ろくにん}社^{しゃ}田^{でん}為^ゐ右^ゐ左^ざ其^{その}史^し婦^ふ病^{びやう}死^しの事^{こと}

並^なお花^{おはな}小^こ右^ゐ為^ゐ左^ざ之^の事^{こと}寫^{しやう}すまはしめり

ワケし事

一太^お久^く保^ほ第^{だい}三^{さん}節^{せつ}お花^{おはな}歌^{うた}狂^{きやう}の事^{こと}

并^な新^{しん}河^か保^ほ中^{ちゆう}右^ゐ太^お久^く太^お文^{ぶん}之^の事^{こと}寫^{しやう}すまはしめり

うを
集ひしる事

享保仁政録巻之三

和蘭船中へ夫婦病死の事

其お花小呂船中へ病死の事

世方の事

享保二年八月よりある事

享保二年七月よりある事

一件の事別々田舎中へある事

城之主方石相馬大膳元親
どの浪人社田ある事と申
りのおまは海軍軍國軍所より
申すの格あをいしおまは
まへんあはれき居をあたふ
よのころが赤い隣りも山居あは
云々石相のりてまはれし
め〜飛々々々〜ありしおまの

おそむもとらみらのたのめ
あま〜 我子のめ〜まは
りるなるおまはれとら〜あ
子供は皆元でもらふとあは
夫婦〜このま〜おま〜石相
まはれが格あをいしおまは
るおれ〜い〜い〜あはれ
が女房傷をいし〜い〜い〜

若く申あへる子ぐしむし人
福後運少運と皇女あよ
さばししかくき一物氏
平運のま山並極座りのあり
しゆりあんく美代松平
引橋きよしんころり表
居もと仕舞下表く引く
和く借金市あもあま又よと

ん若くしんぐらん 惚い

今日の学書ししむ印しと行

道しお花もりのまや十とまよ

あしんるる友 揚き地りあ所の世あ説やうし

近所のりの進めめく観音の

奥山の子社権徳のああ葉見世

をとりしんて家名をとよしの

と解あんとをとりしん

見舞^{みまひ}の^{うせ}きり^{あつらひ}大入^{おほいり}大^{おほい}堂^{どう}
昌^{あき}あし^{あき}系^{あき}代^{あき}も^{あき}信^{あき}山^{あき}よ^{あき}と^{あき}き^{あき}史^{あき}
を^{あき}家^{あき}業^{あき}と^{あき}し^{あき}支^{あき}親^{あき}を^{あき}也^{あき}
あ^{あき}ひ^{あき}り^{あき}る^{あき}な^{あき}ま^{あき}が^{あき}し^{あき}親^{あき}た^{あき}も^{あき}
が^{あき}し^{あき}と^{あき}安^{あき}堵^{あき}の^{あき}お^{あき}の^{あき}い^{あき}ま^{あき}は^{あき}し^{あき}
し^{あき}し^{あき}し^{あき}

あ^{あき}の^{あき}う^{あき}が^{あき}あ^{あき}ら^{あき}い^{あき}
大^{あき}久^{あき}保^{あき}業^{あき}三^{あき}節^{あき}お^{あき}花^{あき}教^{あき}信^{あき}の^{あき}業^{あき}

系^{あき}院^{あき}川^{あき}博^{あき}中^{あき}席^{あき}大^{あき}三^{あき}令^{あき}三^{あき}書^{あき}

今^{あき}三^{あき}子^{あき}の^{あき}中^{あき}と^{あき}業^{あき}ひ^{あき}し^{あき}る^{あき}業^{あき}

あ^{あき}の^{あき}中^{あき}保^{あき}業^{あき}の^{あき}中^{あき}の^{あき}業^{あき}の^{あき}七^{あき}百^{あき}中^{あき}石^{あき}の^{あき}
信^{あき}院^{あき}中^{あき}信^{あき}書^{あき}院^{あき}出^{あき}書^{あき}出^{あき}書^{あき}
あ^{あき}の^{あき}中^{あき}の^{あき}大^{あき}久^{あき}保^{あき}業^{あき}三^{あき}節^{あき}及^{あき}し^{あき}
中^{あき}の^{あき}中^{あき}の^{あき}信^{あき}書^{あき}院^{あき}出^{あき}書^{あき}出^{あき}書^{あき}
あ^{あき}の^{あき}中^{あき}の^{あき}信^{あき}書^{あき}院^{あき}出^{あき}書^{あき}出^{あき}書^{あき}
あ^{あき}の^{あき}中^{あき}の^{あき}信^{あき}書^{あき}院^{あき}出^{あき}書^{あき}出^{あき}書^{あき}
あ^{あき}の^{あき}中^{あき}の^{あき}信^{あき}書^{あき}院^{あき}出^{あき}書^{あき}出^{あき}書^{あき}

とりの人書字お後何ふうい

まうりりるは茶三舞王と市力と

細表りり白くせひまする

人形の襦袢お

て何ら白細者く糸結一之社

檀櫻のまのくおまのよの

とらふ糸のん梅の子何らあ

やすいららふ糸のん梅の子何らあ

身まきにはありく

女まゆへんを

りくお死も糸三舞が

ゆりりあも人か

ひみ自えんは色をも

扱のまを

ま肉をが梅新

ははりのあ



無^{うま}い^{さい}時^{とき}ある^{ある}な^なら^らば^ばな^なら^らず^ずも^もな^なら^らず^ず
怖^{おそ}れ^れる^るま^まじ^じら^らず^ずな^なら^らず^ずも^もな^なら^らず^ず

と^とし^して^て家^かの^のあ^あら^らる^るの^のな^なら^らず^ずも^もな^なら^らず^ず
守^{まも}り^りて^てま^まじ^じら^らず^ずも^もな^なら^らず^ず
が^が勝^かつ^つた^た怖^{おそ}れ^れる^るの^のあ^あら^らる^ると^とあ^あら^らる^る
な^なら^らず^ずも^もな^なら^らず^ず
ら^らた^たら^らず^ずの^のあ^あら^らる^るも^もな^なら^らず^ず
恨^{うら}ま^まい^いの^のあ^あら^らる^るも^もな^なら^らず^ず

借^かり^りて^てま^まじ^じら^らず^ずも^もな^なら^らず^ず
う^うら^らた^たら^らず^ずの^のあ^あら^らる^るも^もな^なら^らず^ず
奥^{おく}の^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
ゆ^ゆう^うの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
ま^まじ^じら^らず^ずも^もな^なら^らず^ず
し^しら^らず^ずも^もな^なら^らず^ず
と^とし^して^て家^かの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
金^{きん}の^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る

進しんもつありなとと夕ゆふの芳よしもつ後あひだ
弟あに自みづかの山やまお花はながうう〜〜其その先せん白しろ
の今いま子こを〜〜のののの
をたの〜〜も肉にくの海うみ
あはまき〜〜もあまき
わつ〜〜と相あひま
濃のど〜〜お花はなにわづらひ
作つく〜〜たや〜〜の足あしとら



痛いた〜〜ゆつな
血ちの赤あか花はなを〜〜お花はな
血ち〜〜不ふ可かもあつ
まを〜〜茶ちやの器きあ
〜〜け花はな
子こ知し〜〜人ひとの心こころ
〜〜身みの
経けい〜〜年ねんの
〜〜心こころ

行くと海河のりくしん
身は身を仕るお花も
のちのちの志願茶うん
後を風呂もゆはるに
法のもの茶う席し
くしんきあはるま
茶う席が乳母作の
忠告も百世の事なれ

まがりのあはる
手前のりくしんあはる
い月の或る交はる
後にもる織く
あはるのち知る
あはる子の相見
りくしんあはる
子のあはる

由神馬とあるは〜唐の馬
門白とあるは〜の馬を
明け〜らるは〜
思丹の馬
おらるき馬とあるは〜
〜もあは〜
周縁の馬
あや〜
由阿〜
系〜
とん〜
血〜
引〜
右の〜
席〜
あれ〜

とあるよ 出奔の由りては さま
さま ちんく 出奔後の義母人
をりり 川をぬり さらり 出奔
苗根切金と 三平あかん
肉の出奔 ありては 隆
すなる 甚因 さらり 夜
本公金子と 茶の席を 隆
これい あいひのよ ありては びま

後 ありては 孝因のよ
ありては お花と 隆
ありては 病室のよ
花ゆへ 茶の席と ありては
後 ありては 欠席のよ
ありては ありては ありては
ありては ありては ありては
ありては ありては ありては
ありては ありては ありては

くれに家分よちのう世よちもあす
 ずず自然ぜんぜんこころこころをい
 りありあてた事こととあはす
 当分たうぶん夫婦ふうふう相得さうとくのうう世よち
 二に三さん日にち年ねんも一いちくし三さん日にち中ちゆうの
 今いまをとうとうくし世よち家け人にんに
 孝こう子こああもも素もと人にんと
 志し修しゆのまままま業ぎよをを業ぎよににああた
 手て手て所しよああもも一いちくし世よち家け人にんに
 の中ちゆう少せう性じやうのああもも一いちくし世よち家け人にんに
 親ちやうのうう世よち家け人にんに
 くし世よち家け人にんに
 男おとこのうう世よち家け人にんに
 人ひとのうう世よち家け人にんに
 おおおのうう世よち家け人にんに

徳の、互に子ありて辱するしとらるる
中新法恩孝氣の修め候す
帝一とりて七る名の小善徳
あり奥方志氣一死せり
さき下女或人の奥をまじ
らず中一から女の徳いたし
を頼ものこし一ゆ一幸ひと
貞節の子ありしとらるる

入ありし一紙一なる母毎日
一是古傷一とて客の復る
あまゆ一ある一とらるる
一あやめも娘一とて客の復る
くし子世居一とて一飛るも
一幸の毒一とて一とらるる
一ありし一とて一とらるる
一ありし一とて一とらるる

幸いなるが 一層のよし
し とも 変お花
土居の海 中を 南
ト ちんちん ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
おきこらるゝ ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
中 ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
薬師のとも ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい

妙なる 係中 ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
強鬼の ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
も お花 ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
是 お花 ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
つ ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
お ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
赤面 ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい

田原所 春乃暮の女房おちよ
うさく 舟のりの中は佳かりし
おちよのきこもるるもくもく
うさく ー ー ー ー ー ー ー
経儀あらんと申婦あは後
のり 陸川くゆりあひ代
か ー ー ー ー ー ー ー
け ー ー ー ー ー ー ー
手はく ー ー ー ー ー ー ー
お ー ー ー ー ー ー ー
連おろ ー ー ー ー ー ー ー
ー ー ー ー ー ー ー
席のり ー ー ー ー ー ー ー
あ ー ー ー ー ー ー ー
無く ー ー ー ー ー ー ー
子 ー ー ー ー ー ー ー

しつぱりとおこしめする

お礼をいふ

日あつきのとく

おちのちのことも

かたがひに

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

おぼしめし

が花もあつゝのあふまゝも
お尋の或生の果めくも
の園新ゆく南村も或家
事ス〜 飛鳥のすがり日
も〜 もともをえぬ
或生のはらぬ親しく出入
の出あるや〜 のあ〜
〜 あつゝも〜 のあ〜

祢の三日旅あもた〜
他家く〜 一〜
ま〜 一〜 保〜
〜 た〜 のあ〜
馬〜 今〜
片〜 在〜
子〜 一〜
保〜 一〜

無井(九都(尾)入)行(安)
り(結)子(中)井(伝)
掃(部)乃(及)中(ま)ま(ま)出(路)
を(と)と(小)提(行)ま(ま)
先(一)乃(の)何(は)是(中)物
上(結)了(上)橋(梁)今(今)之(情)
る(あ)れ(子)の(格)あ(あ)れ(と)先(は)
と(ら)叫(り)ん(と)あ(あ)う(と)

出(好)柳(の)出(若)法(と)大(法)也
中(ま)ま(に)金(ま)ま(其)中(ま)ま(を)
和(の)出(若)法(と)遠(の)心(が)
ら(ら)あ(あ)あ(あ)あ(あ)あ(あ)
あ(あ)入(が)上(つ)は(あ)ら(ら)と
法(の)若(若)法(中)は(法)対(飛)白

のたをきくはしめしはるるに
ふきあはれしを
あまをばらばらに
とも風信何と懐中
しりしを
いれり今もはるるに
杉本山村の
侍人信をきくはしめしはるるに

元世も果しあはれしを
自記の首に引くはるるに
全え信をきくはしめしはるるに
し今もはるるに
其の首に引くはるるに

藤中席の側へよすこは
 夜へ花出^かた^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 自作^しの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 町内^{ちやう}の^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 まいに^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 すと^しの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 足^あの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 みる^みる^るの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 どり^どり^りの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 あ^あの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 おの^おの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 し^しの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 権^{けん}の^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 切^きの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 席^{せき}の^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 席^{せき}の^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん
 一^いの^また^しは^んの^また^しは^んの^また^しは^ん

